



NEWS

2009 No.216

3月号

全国整備工場の皆様へNGP組合員200拠点がお届けするお役立ち情報

4月から低公害・低燃費車を対象にした優遇税制スタート

自動車重量税、自動車取得税がゼロから半額に減税を活用して新車市場を盛り上げたい!

4月1日から自動車重量税、自動車取得税が大幅減額されます。経済環境の見通しは不透明なままですが、こんなときこそ自動車業界挙げて、新車販売のキャンペーンに取り組んではいかがでしょうか。環境対応した新車だけでなく、中古車の販売も適応できるケースがあります。

減税の対象はハイブリッド自動車などの低公害車です。国税の自動車重量税、地方税の自動車取得税がレベルに応じて、①減免②75%軽減③50%軽減—の3段階で軽減されます。期間は今年の4月1日から3年間、2012年4月30日までで、自動車重量税に関しては、同期間に受ける最初の継続検査時も減税措置が適応されます。

ホンダの新型ハイブリッド自動車「インサイト」や電気自動車など環境性能の高い自動車主流ですが、注目したいのは自動車重量税、自動車取得税に対する75%、50%の軽減措置です。ガソリン乗用車では、「平成17年排出ガス基準」の規制値を75%以上、上回ること、つまり青いシールで「☆☆☆☆(4つ星)」の低排出ガス車であることがひとつの条件です。それに加えて燃費性能を示す緑色のシールで、平成22年度燃費基準値達成25%以上だと75%の軽減措置、同基準達成15%以上で50%軽減措置と、段階的に適応されます。

最新のモデルでは、メーカー各社が環境性能の強化に力を入れており、この条件をクリアしているものが増えていきます。例えば、トヨタ自動車の新型コンパクト「iQ」は75%の軽減措置が適用されます。昨年8月に発売されたトヨタ「アルファード」、昨年11月発売した日産の新型「キューブ」、軽自動車ではスズキの「ワゴンR」、ダイハツの「ムーブコンテ」などがあります。車種やグレードによって異なりますが、ハイブリッド自動車など特殊なシステム搭載車だけでなく、一般の自動車も低公害・低燃費ならば今回の減税措置の恩恵を受けます。そこがPR

のポイントです。例えば、トヨタ「アルファード」の2.4ℓ車、日産「セレナ」の2WD車も、75%の軽減措置が受けられます。仮に車両価格が300万円だと、15万円かかる自動車取得税が3万7500円で済みます。同時にこのクラスでは、新車時の自動車重量税7万5600円(車両重量2tクラス、3年分)が1万8900円になります。車両価格250万～350万円という範囲だと、15万円から19万円も新車購入時の諸費用が抑えられます。軽自動車の場合でも、4万円前後抑えられますから、買い得感が強まるとは思いませんか。

また従来の減税措置で、09年度中に登録された自動車に対し「グリーン化税制」で自動車税が減税されます。75%軽減措置適用車は翌年度の自動車税が半額に、また50%軽減措置適用車は4分の3ですみます。古い車両を最新の低公害・低燃費車に乗り換えてもらい環境対策を進めるために、自動車関係諸税の

多面的優遇措置が取られています。

さらに中古車では電気自動車、天然ガス自動車などの低公害車を対象にした自動車取得税の税率軽減措置が3年間延長されました。ハイブリッド自動車の場合、4つ星、燃費基準25%以上達成であれば、税率は1.6%軽減されます。また、20年度に決めた特別措置が22年3月までは有効で、自動車取得税の75%軽減対象の中古車ならば30万円、同50%軽減の場合は15万円、課税対象金額を控除することができます。不況、不況と言われ、「代替したくても代替できない」「将来が不安でお金を使いたくない」と、新車購入に二の足を踏むお客様が増えてきていると思います。そういうときだからこそ、優遇税制のキャンペーンは必要で、店頭で減税のPOPを掲げて、お客様の気持ちをほぐしてみたいかがでしょうか。多くの販売店で働きかければ、市場の動きも少しは変わると思うのですが、いかがでしょうか。

■4月からの減税措置とその条件

乗用車

自動車重量税と自動車取得税の減税措置	車種	排ガス規制	燃費基準
減免	電気自動車	(条件無)	(条件無)
	プラグインハイブリッド自動車	(条件無)	(条件無)
	天然ガス自動車(GVW3.5t以下)	平成17年排出ガス基準75%低減	(条件無)
	ハイブリッド自動車(GVW3.5t以下)		平成22年度燃費基準+25%達成
	ディーゼルハイブリッド(GVW3.5t以下)	平成21年排出ガス規制適合(ポスト新長達成)	平成17年度燃費基準+25%達成
クリーンディーゼル乗用車	平成21年排出ガス規制適合(ポスト新長達成)	(条件無)	
75%軽減	ガソリン、LPG車等	平成17年排出ガス基準75%低減	平成22年度燃費基準+25%達成
	ディーゼル車		平成17年度燃費基準+25%達成
50%軽減	ガソリン、LPG車等	平成17年排出ガス基準75%低減	平成22年度燃費基準+15%達成
	ディーゼル車		平成17年度燃費基準+15%達成

トラック・バス

減免	天然ガス自動車 ハイブリッド自動車	平成17年排出ガス基準10%低減	(条件無)
75%軽減	ディーゼルトラック・バス	平成21年排出ガス規制適合(ポスト新長達成)	平成27年度燃費基準達成
50%軽減	ディーゼルトラック・バス	平成17年排出ガス基準10%低減	平成27年度燃費基準達成

産業廃棄物の処理で“お手伝い&ご提案”

処理費の有料化にチャレンジしてはいかがですか 青森・八戸でモデル事業をスタート

修理時に発生する破損バンパーなどの廃棄物の処理費を
エンドユーザーの皆様にご理解を求めて、ご負担いただければいかがでしょうか。
NGP日本自動車リサイクル事業協同組合の中里明光自動車情報委員長が経営する
(株)エコブリッジ(青森県八戸市)でモデル事業に取り組み始めました。
そこに経営のプラスになるヒントがあります。

取り組みは、整備事業者の皆様から産業廃棄物を回収する「エコボックス」を工夫し、整備事業者の皆様がお客様に廃棄物の適正処理費をご負担いただける仕組みを整えたものです。現在、エコブリッジではこの仕組みを「Re ギャザーシステム」と命名し、八戸市内を中心とした取引先20社との間で、運用を始めています。

車両の修理交換時に発生する不用なバンパーなどの、所有権は修理車両の所有者側にあります。にも関わらず、そのまま引き取って自社の産業廃棄物といっしょに処分している整備事業者の方が多いように見受けられますが、その処理費の負担をお客様であるエンドユーザーに求めてみてはいかが

でしょうか。所有者は持ち帰っても粗大ゴミとして廃棄しなければなりません。粗大ゴミの処理費を求める地方自治体も最近が増えており、納得していただけるようです。

処理費をご負担いただければ、経費の圧縮につながります。しかし、廃棄物を取り扱うには法律上の許可が必要で、処理費としては請求書への記載はできませんので「受託料金」となります。Re ギャザーシステムではこうした細かなお客様への対応への配慮とともに、素材、重量で算定し、アイテムごとに指数を作り、処理費の目安を明らかにしています。また、大型ポスターを作製し、「Re ギャザーシステム」を通じて



ポスターで流れは一目瞭然、廃棄物もリサイクルされる

廃棄物がリサイクルされる仕組みが一目で分かる工夫もしました。お客様への請求対応時に近くにこのポスターがあれば、「こうリサイクルしますよ」と、わかりやすく説明することができます。

処理費の目安は、車種によりますが、フロントバンパーで1本300円~700円程度です。バッテリーやタイヤなども受け付けることにより、自動車関係の廃棄物の不法投棄を無くす一助にもなります。

ただし、この仕組みをスタートしたのは、NGP協同組合員の一部の会社です。整備工場の皆様の産業廃棄物を引き取るためには、自動車リサイクル法とは異なる処理資格が必要で、とりわけ整備工場の皆様の産業廃棄物は溶剤なども混ざるため、特別な処理資格が必要になります。また自治体方針で、自動車リサイクル法の解体業の許可業者に産業廃棄物処理資格を許可しない地域もあるからです。

現在、モデル事業の成否をみながら、可能なNGP協同組合員が準備を始めているところです。NGP協同組合はお客様と一緒に、自動車に関連したゴミの削減とリサイクルに取り組んでいきたいと考えています。



子供の笑顔で和らいだ雰囲気のエコボックス

NGP 今月のCO2削減量

NGP平成21年1月: **7,890t** (全12団体計: **14,328t**)

1月からの累計: **7,890t** (全12団体計: **14,328t**)

NGPをはじめとしたリサイクル部品販売事業12団体は、グリーンポイントクラブを作り、リユース部品、リビルト部品を利用することで達成できたCO2の削減量を利用者の皆様にお知らせしています。ご協力ありがとうございます。



支部選出理事に聞く 第3回 関西支部 河村武志理事・支部長

情報を皆で共有することがモットー 意見は言うが、決まったことは全員一致で取り組みます 仕事を育てる営業活動強化が今後の課題

まじめに取り組み意見は百出、活発に意見を交換する明るい雰囲気支部だそうです。その分、メンバーは切り替えが早く決まったことはきちんとやり遂げます。合理的な割り切りが、関西独自の保険車両の引き取りシステムを生み出した。

一支部の活動目標を教えてください。

「全員が一致団結して、ひとつの目標に向かって頑張っていきたいです。関西支部はオープンな支部なので、情報は何でも皆で共有するようにしています。とくに損害保険会社さんの引き取り依頼については、大事な業務のひとつと考えて関西支部独自のシステムを作りあげました。これにより全員が公平に取り組めるようになっていきます」

一支部の雰囲気はどうですか。

「NGPの9支部の中で一番活発な意見が出る支部ではないかと思っています。支部会ではメンバー同士が言い争うこともあるのですが、会議は会議と割り切って後腐れがないことも支部の特長のひとつです。自分達が一生懸命

懸命仕事に取り組んでいるからいろいろな考えを持っている。対立することもあるけれど、話し合ってひとつの方向が決まると、全員がそれに従います。理事会の決定事項も同じで、決まったことに対しては全員一致で取り組むことにしています」

一どのような課題がありますか。

「いろいろありますが、まず損害保険会社さんとの関係をもっと良好にしていきたいと考えています。先日、JA共済連の大阪本部におじゃまされたのですが、営業活動の少ないことを痛感しました。本部が作ってくれた仕事を育てることが現場、つまり支部の役割だと思っています。支部でも営業に力を入れて、仕事を育てていこうと思っています」

一他には。

「使用済自動車の仕入れは各社の生命線です。仕入れについての勉強会もしたいし、付加価値をつけて金属資材を販売するためにレアメタルの勉強会も取り組みたいと思います」

一指導委員会の担当理事としては。

「教育委員会など他の委員会と連携して協力関係を作り上げ、NGP協同組合の力を高める活動に取り組みたいと思っています。関西支部は4月に九州支部と合同で月例会を開催します。そのとき、大石一彦名誉顧問を訪ねていきたいと思っています。こういう時期だからこそ創業の精神に触れることが、大事なことだと思います」



河村武志（かわむら・たけし）
紀南パーツ代表取締役 1960年7月生まれ 48歳

NGPパーツユーザー訪問

NGP パーツユーザーでユニークな経営の整備事業者様を全国に紹介いたします。自薦、他薦で情報をご提供ください。

》 福田モータース（群馬県富士見村）

遊び心で「コカウタック」を作っちゃいました 今は「マッハ号」製作に挑戦中です

国定忠治で名を知られる群馬県赤城山、その麓にある福田モータースを訪ねました。外観は普通の整備工場ですが、少々やることが違います。オーナーの福田博之さんは、「ホンダ S600」のフェイスを「トゥデイ」へと移植したことに始まり、2003年には「カウタック」のミニチュア車を作ってしまった。「スバル サンバー」のフレームをベースにしており、その名も「サンボルギーニ コカウタック」と言います。

90年に米・ラスベガスで開かれるSEMAショーを見学したとき、自由にカスタマイズされた数々の車両に出会い、「作りたいものを作ればいいんだ」と思ったことがきっかけで、

自分でも何かしたいと考えようになったそうです。構想を重ねて、「サンボルギーニ」に着手したのは1999年、仕事の合間を縫ってFRPのボディを作製、内装も整えて02年6月に完成しました。片側だけですが、ドアも上に跳ね上がりますし、友人が作ってくれたエンブレムもついています。

ヘッドライトのリトラクタブル機構で、ライトとカバーの動きを同調させるのに苦心したと言います。また、センターにある「サンバー」のミッションを右サイドに移したのですが、その結果、シフトパターンが反転し、本物の「ランボルギーニ」と同じ操作になったそうです。まだ受けてはいないのですが、車検を通る構造に



手作りした「サンボルギーニ」と福田さん

作り、その上にFRPを重ねたのですが、雌型を作った本格的なFRP ボディーの車を作りたいとのことで、03年から漫画やアニメで馴染みがある「マッハ号」の製作に取り組んでいます。

福田さんはオイル販売のザーレン倶楽部に加盟したばかりで、お客様にオイル交換の必要性を訴えるためのエンジンのカットモデル、さらにCVTのカットモデルを手作りしました。本業も結構忙しいようで、雌型は完成したものの、「その後の作業が遅々として進んでいない」と話していました。



テールは自分の好みで角から丸に



現在製作中の「マッハ号」

東京都・市谷小学校の環境教育研究発表会を視察 目線を広げた啓もう活動の必要性を痛感

2月14日に東京都新宿区の新宿区立市谷小学校で開かれた環境教育の研究発表会にNGP協同組合本部から杉之間大和総務広報委員長、中里明光自動車情報委員長、高橋照夫部長の3名が出席し、総合学習の時間で取り組まれている小学生の環境教育を視察しました。

市谷小学校とは、昨年12月に出席したエコプロダクツで知り合いました。「キッズISO14000プログラム」を始め先進的な環境教育に取り組んでいる小学校で、環境教育の研究発表会の案内が送られてきました。普段接することがない教育の現場で、どのような環境

教育が行われているのかをつかみ、エコプロダクツなどでの展示や自動車リサイクル部品の販促ツールに活かしたいと考えています。

「生きる力を培う環境教育」というタイトルで、保護者や地域だけでなく企業やNPO法人などといっしょになった



総合学習で取り組まれる環境教育、教室には元気な声が響く

環境教育が、市谷小学校では取り組まれています。小学校1年生から6年生までそれぞれ学年ごとに、地球温暖化の問題や大気汚染、リサイクルの問題などを取り上げ、身近な問題を自発的に考えるよう指導されていることに感心しました。自動車リサイクルは一部門ではありますが、こうした広がりの中で、NGP協同組合の活動と自動車リサイクル部品の啓もうを考えたいと思います。



12月のエコプロダクツは壁新聞で報告されていた 自動車部品に着目したレポートを発見

北関東支部と九州支部が初の合同例会 大石名誉顧問宅を訪ねNGP創業の精神に触れる

2月13日、NGP協同組合の北関東支部と九州支部は合同で、NGP発祥の地である大分県別府市で2月の支部会議を開催しました。北関東支部と九州支部が合同例会を行うのは初めてで、活発な意見交換を行うとともに懇親を深めました。

また例会翌日、北関東支部の参加者は、NGPの創業者・大石一彦名誉顧問のご自宅

を訪ね、薫陶を受けました。療養中の大石名誉顧問はとてもお元気で、経済の動向や使用済自動車の在庫状況などを含め、NGP組合員の現状を気にかけていました。同時にさまざまなアドバイスも頂け、北関東支部、九州支部一同は初心に戻って、リサイクル部品の生産・販売に邁進することを誓い合う良い機会を得ることができました。



大石名誉顧問を囲む北関東支部の参加者一同。NGP精神の原点に触れた

韓国リビルト部品調査団がNGP本部を訪問 NGPシステムなどへの関心を示す

韓国からリビルト部品関連の調査団が来日し、2月13日に東京・港区のNGP協同組合本部を訪れました。調査団は、韓国政府系機関の韓国自動車部品研究院(KATECH)の上級調査員、MANDO社、パレオ電子システム韓国のリビルト会社2社の部長ら計7名です。MANDO社は、韓国の総合自動車部品メーカー、MEISTER社のリビルト子会社で、パレオ電子システム韓国は、フランスの大手部品メーカー、パレオの関連会社になります。

リサイクル部品販売システムへの関心を示し、日本自動車リサイクル部品販売団体協議会(JAPRA)への訪問に合わせ、2度目のNGP訪問となりました。

本部では宮地康弘専務理事が対応し、CSRレポートを基に使用済自動車の処理の状況やリサイクル部品の生産、販売の現状などNGPシステムの運用に関する説明を行いました。日本のリビルト部品の現状調査を主目的に来日した調査団は、リビルトコアの回収、会員



仁川自動車研究センターのアンさんを先導役にリビルト調査団が韓国から訪れた

同士の月次決済やリサイクル部品検索などのNGPシステムの運用に高い関心を示しました。リビルト調査では信越電装も訪問しています。韓国は昨年、自動車リサイクル法を施行、リサイクル部品の市場も広がる方向にあるようです。

NGP日本自動車リサイクル事業協同組合事務局

〒108-0074 東京都港区高輪3丁目25番33号 長田ビル2F
TEL:03-5475-1208 FAX:03-5475-1209
http://www.ngp.gr.jp

(株)NGP

〒108-0074 東京都港区高輪3丁目25番33号 長田ビル2F
TEL:03-5475-1200 FAX:03-5475-1201